

令和7年度

希望が丘高等学校一般入学者選抜試験

国語

問題冊子

注意

- 1 監督者の開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないでください。
- 2 問題は、1ページから8ページまであります。
- 3 解答は、すべて解答用紙の所定の欄に記入してください。
- 4 解答用紙の※印の欄には、何も記入しないでください。
- 5 監督者の終了の合図で筆記用具を置き、解答面を下に向け、広げて机の上に置いてください。
- 6 解答用紙だけを提出し、問題冊子は持ち帰ってください。

受験番号					出身中学校		氏名
------	--	--	--	--	-------	--	----

問題は、次のページから始まります。

一

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。句読点や記号等は字数として数えること。

日常生活からふっと浮かび上がるようにして、完結した遊びの世界が※¹しつらえられる。それが楽しいものと感じられる。その楽しさとはどんな楽しさだろうか。

日常生活のしがらみから、aカイホウされた自由さが楽しみを生む基本条件になっている。それは確かだ。が、それはあくまで条件であって、楽しみの内実はそれから先にある。日常性を抜けた自由さのなかで、初めと終わりのある完結した行動として展開するのが遊びだとして、その遊びの世界の楽しさとはなにか。

自分が遊んでいるときの心理を振りかえってみても、他人の遊ぶすがたを外からながめても、遊びのなかで人は興奮した状態にある。みずから緊張状態を作りだそうとし、作りだされた緊張状態にみずから溶けこもうとしている。そういう気分の昂揚が遊びの基本要素の一つだ。そして、気分の昂揚は完結した一世界を主体的に作りだす創造性と強く結びついている。

日常生活にしっかりとほめこまれた仕事や労働は、外からやってくるさまざまな強制や要請を受けいれざるをえず、また、作業

そのものの要求する合理性や効率性に縛られて、自由な創造行為とははるかに遠いところにある。が、遊びはそうではない。日常生活を抜けだしている分だけ社会からの強制が働かないし、物を生産したりサービスを提供したり、bソントクを計算したりする行為ではないから、合理性や効率性に縛られることも少ない。どうふるまうかは各自の自由な主体性にゆだねられている部分が大きい。ということは、遊びがどう展開するかはきわめて不確定だということだ。①遊びにおける気分の昂揚は、不確定の状況に身を置く不安と、自他の創意と工夫によって不確定を確定へともたらず主体性の発現とがからまり合って生みだされるのだ。もともと気分の昂揚が予想され期待され、その予想と期待に応じるように気分が昂揚すると、遊びの世界は日常世界とはちがう華やかさを帯びてくる。それが遊びの楽しさだ。そうした楽しさは遊ぶ人びとの気分の昂揚によってもたらされたものだが、気分の昂揚がひたすら感情的に追求されると、遊びは無秩序な乱痴気騒ぎらんちきになって、それでは楽しみが持続しない。遊びは一回ごとに完結するもので、

いつまでも楽しさが持続することはないが、A。遊びに、それなりのルールや作法や仕掛けや段取りが存在するのは、楽しみの持続を願う多くの人びとの、無意識の、あるいは意識的な、知恵のたまものなのだ。ルールや作法や仕掛けや段取りは、なによりも、遊びを楽しいものにするためのものだ。

その点で、^②遊びのうちにある秩序は仕事の秩序とは質を異にする。仕事の秩序は合理性と効率性を基本とする秩序だ。どれだけ短い時間に、どれだけ人手を少なくして、どれだけ多くの物を作れるか。どの部署に、どんな人物を、どんな規模で配置するか。外からの注文や要望や苦情にだが、どう対応し、内部の動きにそれをどう反映させるか。……そういった配慮のもとに仕事の秩序——部局の設置、責任の分担、人員の配置、生産の規模、労務管理、支社との。レンケイ、関連会社との協力体制、等々——が組み立てられ、情勢の変化に応じて秩序はさまざまに手直しされる。組み立てにも手直しにも合理性と効率性への配慮が欠かせない。そこが遊びの秩序は決定的にちがう。合理性と効率性への配慮

(注)※1しつらえられる……ある目的のための設備をある場所に設けること。

はゼロではないが、それが秩序の基本ではない。どう気分を昂揚させ興奮の波を作るか。いいかえれば、どう遊びを楽しくするか。そうした配慮が秩序の——ルールや作法や仕掛けや段取りなどの——基本だ。前の遊びとつながらなくてもよい。遊びの始まる前にあった出来事ともつながらなくてもよい。遊びの後に来る出来事ともつながらなくていいし、後続の遊びともつながらなくてよい。遊びが始まって終わるまでの流れが、緊張と弛緩しかん、動と静、リズムとハーモニーをソナエタd充実した時間をなし、そこで楽しい気分の昂揚が味わえることがなにより大切なのだ。遊びの秩序は、まずもって、そういう充実と楽しさを作りだし維持するためにある。秩序の作りかたという点から見ても、遊びは、衣食住という暮らしの土台からはやや浮いたところにあり、生活の直接の必要や、生活に直接に役立つ有用性や有益性を逸脱した。営みだということが出来る。必要や有用性や有益性を逸脱しているからこそ、楽しみを純粹にそれとして追求することが可能なのだ。

(長谷川宏『高校生のための哲学入門』による。一部改変)

問一 傍線部 a く e の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直さない。(なお、送り仮名が必要なものは、平仮名で正しく送ること。)

問二 傍線部 ①「遊び」における気分の昂揚」が生み出されるのに必要なものは何か。本文中から二つ、二字と六字で抜き出して答えなさい。

問三 空欄 A に入る適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 一回の遊びの時間内では楽しさが持続するのが望ましい イ 興奮が高まれば高まるほど遊びの楽しさは長く持続する
ウ 遊びの後の出来事にも楽しさは持続しなければならない エ 日常生活のルールがあることで遊びの楽しさが持続する

問四 傍線部 ②「遊びのうちにある秩序は仕事の秩序とは質を異にする」について、次の問に答えなさい。

- (一) それぞれ何を基本とすると述べているか。それをまとめた次の空欄 I 、 II に入る適当な語を、本文中から抜き出して答えなさい。ただし、I は七字、II は四字とする。

仕事の秩序	I が基本
遊びの秩序	気分を昂揚させ、II を作るという配慮が基本

(二) 遊びの秩序は何のためにあるか。本文中から十七字で抜き出して答えなさい。

問題は、次のページに続きます。

次の文章を読んで、後の間に答えなさい。句読点や記号等は字数として数えること。

小学校六年生の佐倉ハルはロケット開発のエンジニアになるという夢をもち、自作ロケットの製作に友人と一緒に取り組んでいる。その友人がアメリカに転校することを知り、どうしても自作ロケットの打ち上げを見せたいと願ひ、その費用として三十万円を貸してほしいと祖父の哲じいに願ひ出た。

おれは哲じい、それこそありとあらゆる事情を説明した。

最初、三十万という額^aを伝えた瞬間は、そのあまりの常識知らずの桁^げに哲じいも①ひよっとこみたい顔をしていたものの、全ての説明を終えたあととは、

「なるほどな」

と、一方的に否定するようなことはしないで、まずはひとつ大きく願ひ^{うなず}いた。

「ハル。おまえの考え、全くもってわかりかねるとは言わない。しかしな、だからといっておいそれと三十万は渡せねえ」

②毅然^{きぜん}とした態度でそう返し、哲じいはひどく真面目な顔で続ける。

「三十万つてのは、本当にとんでもない大金だ。シャツ一枚、業者に洗いを頼んで、俺がアイロンをかけて、それで一体どのくらいの利益が出るかくらい、お前だつて大体はわかるだろう？」

わかる。

それはもちろん、わかっている。

哲じいが言うように、店で一番安い価格設定である一枚二百三十円のワイシャツにアイロンをかけて、うちに入る純粋な利益というのはそれこそ百円程度だ。もし仮に百円と計算しても、三十万円を稼ぐのに哲じいは三千枚のシャツにアイロンをかけなくてはいけない。

季節を問わず熱気に包まれるボイラー室でシャツにアイロンをかけ続けるといふ行為が、どれだけの重労働かは理解している。夏場であればそれこそ滝のように汗を流しながら、けれどその汗が布の上に落ちることがないよう、常にサイシンの注意を払って、アイロンを滑らせ続ける哲じいの姿は、いつだつて尊敬の対象だ。

その労力を考えると、おれがいまいかに馬鹿げたお願いをしているか、痛いくらいに身に染みる。

しかしだからといって、そうだよね馬鹿なこと言つてごめんなさいと大人しく引き下がることもできなかった。

③意識して、おれは申し訳なさそうな顔をしな。その行為には、何の意味もないことだから。

そんなおれを前にしたまま、哲じいは思案するようにはばらく

の間、口を結んであごをさすっていたのだが、

「そうさな」

言ってから、ひとつ頷いて、

「条件次第では、半分の十五万なら貸して……いや、くれてやらんでもない」

……十五万！

そのあまりにも理解のある返答に思わず飛び上がりそうになるが、しかし十五万ではまだ足りないのだ。

それに、くれなくていい。貸してもらえただけで構わない。小学生の言うことなんて信用ならないだろうけど、中学の間には必ず返す。それこそ新聞配達でもなんでもして、必ず。

そう伝えれば、哲じいは小さく頷いて、

「確かに、小学生の言うことなんぞ信用ならん。それどころか、中学生の言うことだって正直なところ信用ならんさ」

A に衣着せることなく返してくる。

その言葉はあまりにも正論だ。それを理解しているがゆえに、口の奥でどうにもならない苦さを感じていると、哲じいは、

「だが、俺はな、佐倉ハルという自分の孫のことは大いに信用しているんだ」

そんなふうには真顔で続けて、おれの **B** を細くさせる。おれが驚愕のあまりなんと返すこともできないでいるところに、哲じいはゆったりと言葉を繋ぐ。

「俺はなにも、お前を信用していないから金を貸さないわけではない。お前なら、貸した金は何があっても、多少の時間はかかるかもしれないが返すだろうさ」

④ それならどうして、とおれが尋ね返すよりも早く哲じいは、
「俺は、孫に借金をさせる爺にはなりたくない」

その言葉を前に、一瞬、呼吸ができなくなりそうだった。

「金は大事だ。考えようによつては、あえて大きな金を貸すことでその大事さをわからせることもできるだろう。だがお前は賢い子だ。俺が今まで見てきたどんな子どもよりも、お前は賢い。俺はな、そんなお前が金の大事さを理解していない子どもだとは思っていない。そんなふうには育てたつもりもねえしな。そして、お前がいま金を必要としている理由も、間違っていない。ならお前に金を貸す必要は、少なくとも俺の中にはねえんだよ。金を棺桶に入れても仕方がないからな」

まあ、焚き付けくらいにはなるかもしれないがな、などと最後に言い。ソエながら哲じいは口の片端を引き上げるようにして笑う。そんな皮肉っぽい哲じいの笑みを前にして、おれは情けなくも少しだけ ⑤ 目頭が熱くなりかけた。

(八重野統磨『ペンギンは空を見上げる』による。一部改変)

問一 傍線部 a ～ e の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。(なお、送り仮名が必要なものは、平仮名で正しく送ること。)

問二 傍線部 ①「ひよっとこみたいな顔」とあるが、これは哲じいのどのような気持ちを表現したのか。次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 驚き イ 怒り ウ 悲しみ エ 喜び

問三 傍線部 ②「毅然きぜんとした態度」の意味を、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分勝手な態度 イ 優しさにあふれた態度 ウ 強くしつかりした態度 エ 心配そうな態度

問四 傍線部 ③「意識して、おれは申し訳なさそうな顔をしない」とあるが、「意識して」から読み取れる「おれ」の気持ちを説明した次の文章の空欄 I、II に入る適当な語を、本文中からそれぞれ十字程度で抜き出して答えなさい。

I	II
ことは分かっているけれども、	わけにはいかない気持ち。

問五 空欄 A、B に入る、身体の一部を表す漢字一字を答えなさい。

問六 傍線部 ④「それならどうして」の後にはどんな言葉が続くか。次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア お金をあげないの イ お金を貸してくれないの ウ お金をくれないの エ お金を捨てるの

問七 傍線部⑤「目頭が熱くなりかけた」について、次の中村さんと土田さんの会話を読んで、空欄Ⅰ、Ⅱに入る適當な語を、本文中からそれぞれ抜き出して答えなさい。ただしⅠは二十九字、Ⅱは九字とする。

中村さん…ハルは哲じいに、中学の間には、新聞配達でもなんでもして必ずお金を返すと伝えていたね。

土田さん…けど、小学生や中学生の言うことは信用していないと正論で返されたね。

中村さん…そうだね。だけど、孫であるハルのことは信用し、Ⅰと言ってくれたね。

土田さん…哲じいは、ハルがⅡ理由を理解してくれているよね。そんな、哲じいにハルは目頭が熱くなったんだね。

三

皆と協力して達成したことについて、題名と氏名は書かず、原稿用紙の正しい使い方に従い、百六十字以上、二百字以内で書きなさい。

